

鱗形葉（鱗状葉・鱗葉）

- ◆扁平な葉が十字対生して茎を包む。小枝と一体化している。毎年その先が成長し、また小枝ごと落ちる
「写真で見る植物用語」（全国農村教育協会発行）の76ページから引用
- ◆鱗形 「葉が縮小して鱗状になったもの。ヒノキ科のヒノキやアスナロの葉は鱗形である。
「目で見る植物用語集」 研成社刊から引用

鱗形葉（鱗状葉・鱗葉）



ヒノキ

葉に表裏あり。この写真は表です。Y字の模様が見られます。
葉の裏は、このY字が白色です。気孔帯（気孔線）です。サワラはX字です。気孔帯の形でヒノキとサワラを見分けるとありますが、鱗形葉（鱗状葉・鱗葉）の形と手触りの感覚が違います。葉は十字対生です



サワラ

サワラの鱗形葉（鱗状葉・鱗葉）先は尖ります。右は葉の裏気孔帯 X字型・右は葉の表から見た



アスナロ

道南にヒノキアスナロ分布と図鑑にあります。アスナロかな、ヒノキアスナロかな？その区別はつかない。私の団地に面したTさんの庭に植えてあった。鱗形葉はヒノキやサワラより大きかった。気孔帯



コノテガシワ

中国原産の常緑樹。幹が叢生するので、それと分かる。葉が黄金色のものはオオゴンコノテガシワといいます。庭木として植えら



オウゴンシノブヒバ

サワラの園芸品種。常緑樹。庭や公園に植えられる。我が団地の A さん生け垣として植えられていました。鱗片葉はサワラより薄く尖って反り返る。新芽が緑色のものは、シノブヒ



ヒヨクシバ

サワラの園芸品種。庭木として植えられているのを見つけた。葉は糸状で垂れ下がる。葉が黄金色のものは、オオゴンヒヨクシバといいま



ニオイヒバ

北アメリカ中北部原産の常緑樹。葉に芳しい香りがある。公園樹、庭木、生け垣などとして植えられ

ヒノキ科は、スギとヒノキアスナロが道南に分布するとあります。

ヒノキ科の樹木は公園樹として、庭木として植えられています。園芸種が多いこと、刈り込んでいる場合が多くて、同定は難しいです。植えている人に尋ねても「ヒバの仲間だ」と答えるぐらいでした。これで間違いのないと思ったもののみをとりあげてみました。

2022年8月25日、NHKの「にっぽんトレッキング・長野、木曽」で、ヒノキ・サワラ・アスナロを紹介していました。木曽五木（アスナロ・サワラ・ヒノキ・ネズコ・コウヤマキ〜「ア・サ・ヒ・ネ・コ」と覚えるといい）は有用な木で。尾張藩が厳重に管理していた。ヒノキ、サワラ、アスナロは「木一本首一つ、枝一本腕一つ」といって、違反すると厳しく処罰されたそうです。